

麻生久 労働運動家・政治家。中間派社会民主主義のリーダーで、近衛体制に協力直後、急逝した。

あそうひさし

足尾鉦毒始・1891 = 良策の次男として大分県玖珠郡東飯田村(九重町)に生まれた。

日清戦争始・1894 = 3歳 :

白馬会・・・1896 = 5歳 : 叔父麻生忠蔵の養子となり東京に移ったが、

Bushidou・・・1899 = 8歳 : 養父の死にあい、再び生家にもどった。

ビア/国産化・1900 = **9歳** :

日露戦争終・1905 = 14歳 :

伊藤博文暗殺1909 = **18歳** : 大分中学を卒業、上京して第一高等学校を受験したが失敗、

韓国併合・・・1910 = 19歳 : 第三高等学校仏文科に入学、

文学に耽る一方、榎橋小虎・山名義鶴らと縦横会を組織して進歩派の学生運動をおこし、

明治天皇没・1912 = 21歳 :

大正政変・・・1913 = 22歳 : 東京帝大仏法科に進む。第一次護憲運動にも参加、

ロシア革命・1917 = 26歳 : 結婚、大学を卒業。東京日日新聞記者となったが、ロシア革命に感激、水曜会を組織して社会主義研究をはじめ、友愛会にも関係し、

本格政党内閣1918 = **27歳** : *黎明会結成に奔走、新人会に参加。

大正政変・1919 = 28歳 : 記者をやめて友愛会出版部長となり、雑誌「解放」創刊に活躍する。

大暴落・・・1920 = 29歳 : 全日本鉱夫総連合会を結成、足尾争議を指導。

原敬首相暗殺1921 = 30歳 :

関東大震災・1923 = 32歳 : 「濁流に泳ぐ」、

護憲三派圧勝1924 = 33歳 : 「黎明」、

治安維持法・1925 = 34歳 : 総同盟政治部長に就任、

円本時代始・1926 = 35歳 : 労働農民党中央委員になったが、同年総同盟など右派組合が脱退して新党樹立を画策すると、河野密・三宅正一ら同志の糾合をはかり、中間派の日本労農党を結成、

金融恐慌・・・1927 = **36歳** : *書記長に就任。以後、中間派社会民主主義のリーダーとなり、

海軍軍縮条約1930 = 39歳 : 「生は闘ひの上であり」、

満州事変・・・1931 = 40歳 :

五一五事件・1932 = 41歳 : *社会民衆党と合同、社会大衆党を組織し書記長になるも、<五・一五事件>後、軍部・ファシズムに接近、

国際連盟脱退1933 = 42歳 : 「転換期日本の建設計画」を起草、

帝人疑獄事件1934 = 43歳 : 陸軍パンフレットについては、その「革新性」を評価するに至った。

二二六事件・1936 = **45歳** : 総選挙に当選、

日中戦争始・1937 = 46歳 : 再び総選挙に当選、無産政党への期待を集めたが、この時期人民戦線運動をめざす労農無産協議会(のちの日本無産党)が門戸開放を要求したのに対して拒みつけた。

健保+総動員 1938 = 47歳 : 電力国家管理法に賛成、

第二次大戦始1939 = 48歳 : 東方会との合同を画策、

大政翼賛会・1940 = 49歳 : *近衛新体制に協力、いち早く社大党を解党したが、新体制発足を前に、心臓麻痺で没した。